

OSAKA
UNIVERSITY
OF ECONOMICS

KEIDAI DAYS

大阪経済大学
OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

2019年1月

No.49

<http://www.osaka-ue.ac.jp/>

発行：大阪経済大学広報課 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 / 本紙へのご意見は、webmst@osaka-ue.ac.jpへお寄せ下さい。(本紙記事の無断転載を禁ず)



OSAKA 5GO!WALK

～災害に強いまちづくりは健脚から～

第2回

開催!

健康づくりと災害に強いまちづくりを目的とした防災ウォーク「OSAKA 5GO!WALK ～災害に強いまちづくりは健脚から～」が、12月1日(土)、東淀川区役所との共催で開催された。この催しは、巨大地震などが発生し外出先で帰宅困難となった際に、歩いて帰れる20kmを目安として、5時間歩ける健脚づくりと普段から何気なく歩いているまちを防災という視点から見直して、まちの魅力を再発見することを目的に2017年度より開催。災害時避難場所でもある本学をスタート地点とゴールに設定し、地域住民や学生など約800名が、淀川河川敷を北上する5km・10km・20kmの3コースに分かれて歩いた。またキャンパス内では、避難所開設訓練などの体験、本学学生や子どもたちによるステージ、自衛隊による炊き出しなどが行われた。防災・健康をテーマとしたブースも多数出展され、家族連れや高齢者など大勢の参加者で賑わった。



- ◆主催 大阪経済大学
- ◆共催 大阪市東淀川区役所
- ◆協賛 大和リース(株)、大阪シティ信用金庫東淀川支店、関西電力(株)、関電ファシリティー(株)、大成建設(株)、萩原工業(株)、(株)明石スクールユニフォームカンパニー、(株)鴻池組、千里ハウジング(株)、フジワラ産業(株)、大阪ガス(株)、(株)大阪城口研究所、大阪信用金庫上新庄支店、ジャトー(株)、大成ロテック(株)、南海電設(株)、長谷川体育施設(株)関西支店、(株)林建設、丸善雄松堂(株)、(株)近鉄百貨店、(株)日興商会、昭和堂鍼灸整骨院
- ◆後援 大阪府危機管理室
- ◆協力 大阪市東淀川消防署、自衛隊大阪地方協力本部

自衛隊による炊き出し

各ウォーキングコースの参加者に、カレーが振る舞われた。被災地などでの炊き出しに使用される「炊事車」と自衛官による調理の様子に、大人も子どもも興味津々の表情で、ウォーキング後のカレーを味わっていた。



段ボールによる避難所開設訓練

避難時の心身の疲労を緩和できる「段ボール製パーティションづくり」を体験。本学学生、地域住民、近隣の中学校の生徒たちが協力し、12枚の段ボールで床や仕切りを作製。さらに段ボール製ベッドやイスづくりにも取り組んだ。



地震体験車



大阪市消防局の地震体験車で、震度7の地震を体験。「怖かった」「こんな地震が起きたら逃げられない」と、みんな巨大地震の揺れの怖さを体感した様子。

OSAKA
5GO!
WALK!
キャンパス

ブース

災害時の緊急充電スポットとなる移動事務所(キャラバン)の展示や土のう最適重量25kgをピットリ充填できるかな?体験、防災グッズの展示や防災備蓄品の配布など。骨密度や握力測定、温かいおしるこの提供も。また、記念写真を撮影してのオリジナル缶バッジ制作・販売もあった。

ステージ

本学のストリートダンスサークル「Battle Ground」によるダンス、軽音楽サークル「アメリカ民謡研究会」によるギター演奏&ボーカル。さらに地域の子どもたちによるフラダンスや、バトン演技などに、大きな拍手が送られていた。



主な記事

contents

- (1面) OSAKA 5GO!WALK「キャンパス」
- (2面) OSAKA 5GO!WALK「ウォーク」
- (3面) 大樟会だより
- (4・5面) ZEMリーグループリ
- (6・7面) 広報隊 学生編集ページ
- (8面) 大阪経済大学PBLプログラム 他
- (9面) ウエルネスはーく東淀川
- (10面) 経スボ 標準式野球部・陸上競技部
- (11面) 経スボ ハンドボール部 他
- (12面) FD通信、古本募金 他



5GO!
WALK!
ウォーク



学生が最後尾で見守り、誘導。 人間科学部 高井ゼミのノルディックウォーク体験も

コースマップを見ながら歩く参加者たち。各コースの最後尾はアメリカンフットボール部の学生が務めた。「みなさんをしっかり後ろから見守ります」（為下蓮太さん、経営学部1年）。淀川河川敷以外は交通量の多い街中、要所所で学生スタッフが誘導を担当した。また、人間科学部 高井ゼミの学生の指導でノルディックウォーク体験を実施し、中にはマイポールを持参した参加者もいた。



学生による防災体験企画を実施

河川敷の3kmチェックポイントでは、学生実行委員の学生たちが毛布や物干し竿を使った簡易担架づくりや高齢者疑似体験用ギブスを紹介。担架体験でお子さんを運んでもらった保護者の方からは「いざという時役に立ちそう」と感想を語った。

学生企画をまとめた鉢上光樹さん（経済学部3年）は「先を急ぐ参加者に体験参加の声を掛けるのは大変だった。ゴール後にカレーも待っているの…」と苦笑い。グループでの参加者は友人同士やファミリー、学生、ウォーキング仲間などさまざま。中には愛媛県から来たという方々もいた。

地域との絆を強めた1日 防災と地域の魅力を みんなで歩いて考える

「OSAKA 5GO! WALK」のメインイベントとして実施された防災ウォーク。約800名の参加者が、東淀川区の災害時避難所でもある本学をスタート・ゴール地点に、防災施設を確認しつつ、淀川沿いの風景を眺めながら歩いた。設定されたのは5km、10km、20kmの3コース。沿道では学生スタッフが、コース指示、スタンプラリーのスタンプ押印、防災体験企画の実施などで防災ウォークを盛り上げた。



かまどベンチで休憩

10km、20kmコースの9km地点にあたる瑞光寺公園では、地元町会の皆さんがお茶を振舞った。使用された「かまどベンチ」は、災害時には煮炊き用のかまどになる防災設備。参加者は、直火を眺めながら熱いお茶で一息ついた。



歩くことの大切さを確認

スタートから数時間後、次々とゴール到達。最後尾で20kmを完歩したアメリカンフットボール部の学生たちからは「河川敷を歩いている時がしんどかった」（芝本大知さん、経営学部1年）、「歩くだけとはいえ、20kmは本当にきつかった」（羽瀬裕人さん、経営学部1年）と正直な感想も。声援を送り続けたスタッフは「寒かった。でも楽しかったです」（大石夏帆さん、米田万櫻さん、経営学部1年）。歩き続けることの大切さを実感した学生たちは、地域の方々と絆を深める有意義な体験にとても満足そうだった。





大樟会だより

早朝の雨もすっきり上がった平成30年10月27日(土)11時から、大学祭開催中の母校R館21教室で、ホームカミングデー・大樟会総会が華やかに開催された。

全国各地から334名の同窓生らが参加し、総会、講演会が行われ、引き続き、学生会館でホームカミングデー懇親会が開かれた。

2018大樟会総会 記念講演

総会終了後、上杉道世氏(大正大学理事長特別補佐、元・東京大学事務局長)による記念講演が行われた。文部科学省で長く大学関連業務などに携わり、東京大学での国立大学法人化に関する業務の経験などから、日本の大学の現状や大学と同窓会の関わり方について解説、提言いただいた。

▶課題が山積する、私立大学の現状

今、18歳人口は減り続けており、中央教育審議会(中教審)のまとめでは2040年に現在の約8割になると予想されています。つまり、2割の大学は経営がなりたたなくなります。多くの大学が危機感を持って改革を進めています。

今後、人生100年時代の到来、外国人労働者の増大などグローバル化の徹底、AI(人工知能)導入などにより、産業構造に変化が生まれるでしょう。終身雇用の崩壊などによる雇用の流動化で、大学での学びの形も変わってきます。

大学改革のポイントを抜き出してみましょう。大学でよく見られるのが、議論優先で何事も決定しにくい状況。そのた

ホームページ冒頭に「この大学に入学して良かったと思うのは卒業してからかもしれない」との言葉が書かれています。同大学では、卒業生(塾員)用のオンラインネットワークを築き、卒業25年目の塾員を卒業式、50年目の塾員を入学式に招き、51年以上の塾員を毎年5月の会合に招待しています。塾員は選挙によって、義塾運営の最高決議機関を組織する評議員になります。

他の事例として、京都光華女子大学は4親等までのファミリー推薦入試を実施し、入学金を実質的に割り引いています。また、大阪経済大学でも『つながる力』ナンバーワンを目指し、オーナーなき私学にあって「多様な職業人養成」という建学精神を堅持。同窓会は①会員相互の親睦、②応援団・サポーター、③ステークホルダーという3つの役割を担っています。

▶帰属意識を持続可能とするために

では、卒業生の帰属意識を持続可能とするポイントは何か。大学への愛着の原点は、良き学生時代を送ったという満足度にあり、自身の成長や大学への感

創立100周年に向け、 2018ホームカミングデー・大樟会総会、盛大に挙行 母校の発展を祈念



挨拶をする田村大樟会会長

藤本二朗理事長は「日本私立大学理事として活動するなか、大学破綻に関する話を度々聞く。少子化も待ったなし。そこで、創立100周年に向け、この地で生き残るための将来ビジョンを策定。また、さまざまな改革の実施を通じ、これまでで

「最近少し、ホームカミングデーの元気がなくなっている。『つながる力』ナンバーワンを掲げる大学にふさわしく同窓生全員の協力が必要。同窓会活動が活発な大学こそ、そ

の価値は大きく、ずっと持続できる」とあいさつした。

次に、永年にわたり大樟会支部長・大樟春秋会会長を務め、このほど退任された4氏に感謝状が贈られた。続いて、第50回全日本大学駅伝対校選手権大会出場(2大会ぶり22回目)の陸上競技部と、

の価値は大きく、ずっと持続できる」とあいさつした。



壮行会の様子

第61回全日本学生ハンドボール選手権大会出場連続33回、通算53回のハンドボール部を激励する壮行会が行われ、会場のあちこちから「がんばれ!」の声が挙がった。セレモニーはつづがなく終了し、続いて上杉道世氏による講演会が開かれた。

旧交を温めた ホームカミングデー

会場を学生会館2階に移し、13時からホームカミングデー懇親会が行われた。開会に当たり、藤本理事長が「昨年の就任以来、各地の企業や高校を訪ねている。学生の就職も好調。自分、学費値上げはせず、よい教育を続けたい」と報告を兼ねてあいさつ。

その後、広島県賀茂等(カタログギフト5千円)を学生会館2階に移し、13時からホームカミングデー懇親会が行われ、同窓生でもある小谷融本学副学長が乾杯の発声、華やいた空気に包まれた。終盤にはビンゴゲームが開かれ、1等(高品質枕)が八尾英規さん(43回)ほか4名、特別賞(メロン)が山内淳子さん(47回)に当たった。以下、2

最後に、下石秀男元応援団長(37回)がエルを切り、学歌、追憶歌を全員で斉唱し、山本隆造大樟体育会会長(37回)の音頭により万歳三唱。そして、崎田洋一本学常務理事が閉会を宣言した。参加者は、来年の再会を約束し合っており、会場を後にした。

- 感謝状を
贈呈された方々
- ・前北河内支部長 森川 義一様(25回)
 - ・前宮崎支部長 福田 俊彦様(32回)
 - ・前和歌山支部長 新田 和弘様(32回)
 - ・前大樟春秋会会長 矢倉 英一様(39回)



懇親会の様子

大学の持続につながる 卒業生施策の在り方

●講師 上杉 道世 氏 大正大学理事長特別補佐

め、理事長・学長のリーダーシップを強化し、戦略的な大学運営を可能にすること。また、授業・大学運営の両面における教職員の資質向上。社会に必要な能力・心構えを習得するキャリアガイダンスの制度化など。これらが今日の大学の課題と言えるでしょう。

▶今後の大学改革・経営と同窓会の役割

それでは、これからの時代に求められる大学改革とは? 各大学は自らの力で魅力ある教育研究を実現しなければ持続できません。そのためには大学マネジメントの向上が不可欠です。教職員が「大学経営はどこの誰かがやってくれるもの」と思っている大学は衰退し、「自分たち一人ひとりが大学経営を担っている」と考える大学は発展します。企業と同じで、構成員が一丸となって努力する必要があります。そして、これからの大学経営に大切な要素の一つがステークホルダーとの良好な関係です。ここで注目したいのは、学生が大学に満足し、愛着を持つこと。卒業後も、できるだけ大学と関わりを持ってもらうことが大事です。

慶應義塾大学の同窓会「三田会」の

謝を感じてもらうことが大切。次に、卒業生名簿を適切に管理し、大学の情報等を発信し続けること。また、節目の行事への参加も促進しましょう。同窓会の組織化は在学中・卒業時から始め、強力な推進組織を確立することが大切です。また、学生の就職活動時の支援など、卒業生と在校生の自主的な動きを軌道に乗せること。さらに、卒業生が大学の教育や経営に参加する機会を増やす。こうした連携の集積として、寄付は生まれるのです。ただ、同窓会の機能には両面があり、伝統を重んじる同窓会が男女共学化への転換を阻止した事例もあり、逆に、大学合併をリードした例もあります。同窓会の在り方は多様です。大規模総合大学では組織化が難しいが、実現した場合は効果が大きく、小規模単科大学ではまとまりやすいが機能が限られるので、活動の焦点を明確に絞り込むことが大切です。

これからの時代、同窓会の機能や役割は一層大きくなります。大阪経済大学に合った関係づくり、大学と同窓会の双方にとって良い活動を考えていただければと思います。

米川ゼミ1班



チームぐっさん



river



HY2

1st
STAGE

道具が使えないドラちゃん



奨学金、半端ないって！



通勤急行



プロフェッショナル 美しい



Mission M



TEAM現代っ子



うふふぼえむちゃん



みゃんみゃんファンクラブ



71チームの中を勝ち抜き ZEMI-1 グランプリ

激戦を制したのは



「第9回ZEMI-1グランプリ」1st STAGEが10月20日(土)に開催され、71チームがA、Fブロックに分かれて発表、各ブロックの上位3チームが2nd STAGEに進んだ。

10月27日(土)、2nd・Final STAGEが、E館各教室(3、5階)で開催された。2nd STAGEに出場したのは、1st STAGEを勝ち抜いた18チーム。Final STAGEをめぐり、A、Cの3ブロックに分かれて熱戦が繰り広げられた。

Bブロック(E41教室)では、中村健二ゼミ「隠れミッキー」が「自動運転支援のための地図情報更新情報配信サービス『One Map』」の開発のテーマで、車の自動運転に必要な地図データの効率的な更新システムを提案し、服部圭介ゼミの「クリスマス」は「さくひいき半端ないって！優遇と冷遇の行動実験」のテーマで、不公平な評価がモチベーションに与える影響を実験で検証。宮川敏治ゼミの「ウォッチメンズ」は「How to keep a motivation 離職率増加に終止符を打つ」のテーマで、仕事のやりがいにつながる3つの要素を設定し検証。山本俊一郎ゼミの「しゅんちゃん」は「無形資産の力」をテーマで、ブランド力に注目し、本学の「はてな」などのキャラクターに付加価値を付ける方策を提案した。

そして審査の結果、Final STAGEにはA、Cの各ブロック上位2チームの計6チームが進出。午後1時30分からE31教室で、優勝を争う渾身(こんしん)のプレゼンテーションが行われた。

まず中村健二ゼミの「ぬんGold」が「Twitterを使った賢い子どもの見守りシステム Mike (ミッケ)」のテーマで、既存サービスの課題を解決するビジネスモデルを提案。藤原忠毅ゼミの「オレンジ」は「感情の対立と正負のバランス」とは「の」のテーマで、人の感情に着目し、正負の感情の表出についてアンケート調査を基に検証。太田一樹ゼミの「チーム太たん」は「中小企業と学生団体をつなぐサービス『Cavi』」のテーマで、就職活動に向け、大学生に中小企業の良さをアピールするための事業を提案。中村健二ゼミの「Nitty」は「機械学習とARデバイスを用いた農業技術継承サービス『Smart picking』」のテーマで、高齢化が進む中で問題となっている農業技術を継承するためのビジネスモデルを提案。服部圭介ゼミ「めんたこふあみりー」は「いいね！ボタンがあることが変わる？」意思表示の機会が私生活に及ぼす影響」のテーマで、SNSの投稿画像における、いいねボタンの心理的影響を実験で検証。宮川敏治ゼミの「ちよべりべ」は「大學生のブランド意識調査のテーマで、アンケート調査の結果に基づき衣類などの販売戦略を提案し

しゅんちゃん



とまと



六本杉

2nd
STAGE

梨よりラフランス



ウォッチメンズ



PIXIV



DeerValley



第9回 ZEMI-1グランプリ



た。プレゼン後の質疑応答では、Final Stageとあって「その提案のリスクは?」「言葉の定義は?」「競合企業との差別化は?」といった厳しい質問が審査員から相次いだ。各チームとも堂々と対応するなど、この日に向けて積み重ねてきた練習の成果が見られた。

午後5時30分からは表彰式が行われ、まず審査員の代表が講評し、「全員の代表が講評し、『全員の代表が講評し、』と高く評価。続いて結果発表が行われ、1位は中村健二ゼミの「N'kitty」、2位は同中村健二ゼミの「めんGold」、3位は服部圭介ゼミの「めんだこふぁみりー」が獲得。1位の「めんGold」は「優勝できる」と思わなかった。作業は大変だったしプレゼンも緊張したが、今は解放感でいっぱいです」と笑顔で喜びを語った。そして最後に徳永光俊学長が「ZEMI-1は就職活動に向けた良い経験となり、社会人になってからも力になる。これからも続けていきたい」と締めくくった。

また、Final Stageに残った6チームは、11月25日(日)に開催される第9回西日本インカレ合同研究会予選に出場する。

Final STAGE



めんGold



オレンジ



チーム太たん



N' kitty



ちょべりぐ



めんだこふぁみりー

2日後、本選通知を受け取ったチームは、中村健二ゼミの「めんGold」。12月16日(日)本選出場チーム9チームの4番目に発表する。

本学からは、前回の「N'kitty」「めんGold」「めんだこふぁみりー」「オレンジ」「チーム太たん」「ちょべりぐ」の6チーム。ZEMI-1での経験を生かし、さらに見やすいスライドや聴きやすい話し方など随所に工夫を凝らした。プレゼン後の質疑応答にもチームリーダーを中心に堂々と対応。「伝わる気持ちを大切に発表した」と「チーム太たん」リーダー。カ一杯プレゼンを行った学生たちは、ZEMI-1、西日本インカレ予選を振り返り「リーダーシップ、段取り力などが磨かれた」「めんGold」メンバー。「社会問題を追求する意識が身についた」「N'kitty」メンバーなどと嬉しそうに語った。



第9回西日本インカレ予選会 出場



大樟祭が開かれている間、自主制作映画を上映している映画研究部の毛利穂希さん(経済学部3年)、島本樹さん(情報社会学部3年)、三宅聡真さん(経営学部3年)にお話を伺った。

部員数は現在約70名。指導者はおらず先代部員の技術や教えを代々受け継いでいるという。映画製作のコストは2か月に1回の部費徴収で賄っているそうだ。1つの映画は約15分。製作期間は1か月ほど、手の込んだ作品でも3か月ほどで完成する。映画のチームには監督、編集、演者を配置。中には監督自ら出演することもあるという。「目立ちたい気持ちと自分の映画には自分が出演したいという熱い思いがあるからだと思う」と

映画研究部 new cinema KEIDAI



毛利さん。映画研究部は学内だけでなく、関西シネックという団体にも所属している。この団体は関西圏の学生で構成され、大阪経済大学、大阪電気通信大学、大阪市立大学、追手門大学の4大学が参加している。毎年2回行われる上

映会で各大学の自主制作映画を評価する。役員にあたる毛利本さんによると、大樟祭の作品は昨年夏の上映会で優勝、映研コミュニティでは大樟大映画研究部の名前も有名になったという。部員個人の個性も強く、海を3秒撮るために海の見える場所へ撮影旅行を行なった部員もいるらしい。個人の意思を尊重することを重視しているようだ。しかし、学内の知名度は低く、「とりあえず定期公演に来てほしい」と毛利さん。映画研究部の定期公演会は年5回で、直近では12月21日(金)にA館フレアホールにて上映会が行われた。影でキャンパスを彩る彼らの作品を是非目にしてみてください。

(記事＝鉢上、写真＝塚本)

第70回 大樟祭

絆

—KIZUNA—

10月26日(金)～28日(日)の三日間、大阪経済大学大隅キャンパスにて、第70回大樟祭が行われた。今回のテーマは「絆」。仮装行列を皮切りに、さまざまな模擬店やイベントが行われた。三日間ともこのテーマにふさわしい笑顔あふれる大学祭であった。

中でも学生広報隊は、映画研究会主催の映画祭、カラオケ大会、模擬店No.1を決めるMOG-1、学生広報隊が出店した模擬店に注目した。



大樟祭2日目、カラオケ大会がD館で13時から行われた。多くの参加者の中からとびぬけた実力を見せ93点で優勝した大村怜央さん(情報社会学部3年)にインタビューを行った。大村さんが歌ったのは、スターダストレビューの「木蓮の涙」。このカラオケ大会に昨年、一昨年も参加。85点と優勝には届かず、「めっちゃ悔しかった。去年は帰って荒れましたね」と笑いながら話す大村さんは、ここ2年でカラオケには最低週1回、多い時は週4回を3週続けて通う時もあった。その甲斐あって現在は90点台を下回ることはないという。中学3年生の時に歌うことを好きになったそうだが、当時について「元々音痴で、それが悔しかった」と話す。そんな大村さんが、今は20代で構成された学外のバンドに加わっている。年末や夏に行われるイベントに招待され演奏するそうでは非見てみたい。ようやく優勝した大村さんは「本当に良かった。彼女にPS4をあげたかったので。絶対取ってくると言いました」と安堵の表情を見せた。来年も彼の歌声を期待したい。

(記事＝塚本、写真＝仲村)

熱唱！カラオケ大会のスター



事務局長室



大学組織のマネジメント

事務局長室の加藤正憲さんにお話を伺った。職員は現在7名。月3回以上ある理事会や教授会の会議の段取り、資料作成など、調整役としての

(記事＝香川、写真＝山本)

事務局長室の加藤正憲さんにお話を伺った。職員は現在7名。月3回以上ある理事会や教授会の会議の段取り、資料作成など、調整役としての

大樟大の昼休みは35分。そんな短い時間でも学生たちはまったりしたものだ。そんな時は大学から徒歩5分のところにある喫茶店「グロリア」がお勧め。この地で喫茶店を開業して約40年。開店当初よりランチタイムは近所の工場の従業員や大学生で賑わう。

そんなお店のこだわりは、ランチに使用するお米だ。「生まれ故郷、福井県越前大野でとれた無農薬米。これがグロリアの自慢の逸品です」と店主の岡田邦子さん。「米の品評会で最優秀賞をとるほどのこの米には、人一倍自信がある」と話す。一粒一粒にツヤとコクがあり、おかわりをしたくなる。お店では大皿2杯、並皿3杯まで無料でおかわりができる。そして筆者の目を釘付けにした日替わりランチ。肉や魚の材料を豊富に使い4種類のメニューから選べるようになっている。「これは、平成元年に店舗の改装と同時に始めました。

平成を駆け抜けた 喫茶店グロリア



お客様の要望でランチの時間を拡大、ゆっくり食事ができるようにしました」とシェフの西田由美さんと井上幸子さん。グロリアの料理はすべて2人の手作り。まさに愛情を感じられるお店だ。ランチメニューは680円。お弁当も付けており、野菜や小鉢も付けてボリューム満点だ。

(記事＝奥村、写真＝森本)



●開店時間 9:00～18:00
●定休日 日・祝日、年末年始、お盆
●電話番号 06-6327-2984

ランチタイムは
11:00～18:00



(記事)松野、写真(堀内)

アメリカ民謡研究会が優勝!

毎年大樟祭では模擬店の頂点を決める『MOG-1グランプリ』が開かれる。今回エントリーした24店舗の中から頂点を勝ち取ったのはアメリカ民謡研究会(以下アメ研)。

アメ研はホットドッグを販売しており、総売り上げは3日間で約900食と超人気店。その裏側の工夫と戦略を友澤光稀さん(経営学部3年)に伺った。「皆でソースなどの研究をしてサークル内で声掛けをし、全員が内容を共有することを大切にしたい」その通りソースにはみそマヨといった一風変わったものや、捨て商材となるものを作り利益率をあげる工夫が施されていた。また、ひと際来客の注目を集めたのがシスターやチャイナドレスなどのコスプレ姿の売り子たちだ。これらの戦略からできた長蛇の列は2日目の中間発表で1位という結果をもたらした。その勢いのまま売り上げを伸ばし見事MOG-1の頂点を勝ち取った。優勝の感想を聞くと「1位になって嬉しい。毎年軽音サークルが優勝していたのでどうしたらその壁を超えられるのかを考えた。MOG-1といえばアメ研と言われるように来年も連覇したい」と語ってくれた。毎年熱い戦いをみせるMOG-1。来年は果たしてどの模擬店が頂点に立つのか楽しみにしたい。



魅惑のノンアルコールカクテル

マンドリンクラブ モクテル

C館前から甘い匂いが漂う、マンドリンクラブのモクテルを紹介する。モクテルは果物のジュースをベースに、シロップ等を混ぜ合わせたノンアルコールカクテルだ。味はオレンジ・桃・ライムとSNSで映える商品とココアを販売している。

リーダーの富山裕介さん(経済学部2年)は、「1年生が主体となってやっている

軽音楽部 やんげラーメン

伝統の本格派ラーメン



「模擬店だからといって味に妥協したくはない」とやんげラーメンを売る鐘江雄大さん(情報社会学部4年)。

肝となるスープの試食会では4つのスープ案の中から選び、試行錯誤を重ねたという。味にこだわる姿勢は自信にあふれていた。

軽音楽部は3・4年生がやんげラーメン、1・2年生がフランクフルトの模擬店を毎年出店している。2

(記事)森本、写真(堀内)

本誌でこのページの編集を担当する学生広報隊が大樟祭でたません屋の出店をした。1か月の準備期間を経て材料選びから看板づくり、価格決定と初出店だからこそ悩む場面もあった。

予算と当日の会計を務めた仁部沙彩さん(経営学部2年)は「初挑戦だったので右も左もわからなかった」と苦労を語る。広報隊の情報共有の難しさもあり、不安は当日に近づくほど募っていったとのこと。しかし、「当日になって不安は消えた。今年は大樟祭全体の来客者数も多く、疲労もあったが、やりがいも感じた」と嬉しそうに話した。「スクランブルエッグに」「値段

は見やすいほうがいい!」「持って帰りたいねん!」とお客様からの声を受け、目

玉焼きの焼き方の調整、見やすいPOPの作成やお持ち帰り対応を皆で考えた。

(記事)三宅、写真(仲村)

学生広報隊 たません

初出店のこだわり商品



今回のこだわりについて、「安くて目のお客様が満足できるものを販売した」と調理担当の松野花凛さん(経済学部2年)が話す。お客様のことを第一に考え、お手頃でボリューム満点な一品にこだわった。2日目の午後には『はてやん』も参加。売り上げは最高潮に達し、3日間で571食が売れた。多くの方からおおいという声が聞かれた。大樟祭に出店するのは今年が初。この出店の体験は学生広報隊の今後の活動につながるであろう。

(記事)三宅、写真(仲村)

大経大今昔

その二

第3弾はC館を紹介。C館は平成16年9月に新しく建替えられた。旧C館は5階建てで外壁が白く塗られていたため比較的簡素な印象を受けたが、現在のC館は7階建てでレンガ模様のモダンな出で立ち。透明感が目立つガラス張りの1階は吹き抜けのフリースペース、屋上には庭園がつくられ、どちらも学生がくつろげる空間があり近代な印象を感じさせる建物だ。旧C館の教室は今のようにはホワイトボードの設置ではなく、どの教室も黒板が基本だった。



現在のC館



旧C館

た。また建立当初にはなかったビデオ設備も昭和47年6月に取り付けられ、当時では、新しい設備のある施設であった。現在われわれが使用しているC館の教室にはパソコンが内蔵された机が設置され、現代にあわせた幅広い学びが展開できる場所だ。昔とは様変わりした学舎となっている。

(記事)鉢上
写真(広報課より提供)

総務部総務課



困ったことがあったらここ!

大学の「シヨムニ」

「災害から1日も早く正常な学生生活を送れるように、また、一人でも学生の命が奪われることのないよう守ることがやがてである」と語る。

一方、私たちの父母が会員となる後援会の事務局として、クラブやサークル、学費、資格取得、卒業アルバム購入等に対する援助や教育懇談会運営を担当する山田さんは「後援会としてしっかり学生を支援できるよう、適切な援助をしていきたい」と語った。今年の4月まで学生部で奨学金業務を担当していたので、引き続き学生目線での支援に力を入れていきたいとも話す。

最後にお二人から学生に一言アドバイスを頂いた。「自分の命を守り、他人の命も助ける力を身につけてほしい」と正岡さん。「大学4年間の中でよく勉強し、よく遊ぼう」と山田さん。

(記事)香川、写真(山本)

総務部総務課(丁館2階)の正岡英二さんと山田雄太さんにスポットを当てる。総務課は駐車場・駐輪場の管理や個人情報の取り扱い、郵便業務等、大学内における様々な業務を行っている。その中で、主に自然災害の対策、防災意識を高めるための企画・実践を担う元消防士の正岡さん

大阪経済大学PBL
(課題解決型学習)
プログラム

学生目線で考える 企業の新しい魅力

「大阪経済大学PBL(課題解決型学習)プログラム」は、8月8日(水)から9月20日(木)の夏期休暇中に実施された。今年で2回目となる今回の協力企業は、住宅総合メーカー「大和ハウス工業」で、テーマは「大和ハウス工業の就職人気ランキングを上げるには?」という会社なのに、どうして!?。2年生2名・1年生10名男子6名・女子6名が参加した。

第1回(8月8日)は大和ハウス工業によるオリエンテーションで、同社の総合技術研究所を見学。大隅キャンパスF館前を午前10時30分にバスで出発し、正午近くに現地に到着した。



午後1時から、会議室でオリエンテーションに向けての準備がスタート。昨年に続きファシリテーターを務める原由紀子さんが「自分の力で考えて走ってほしい。皆さんの成長が楽しみ」と挨拶。

当プロジェクトのルールを説明後、学生たちは自身の志望動機や得意分野などアピールする自己紹介を行い、3チームに分かれた。

オリエンテーションでは、大和ハウス工業・人事部長長採用・海外人事担当三原誠氏が、同社の沿革、人材育成や人事制度、今後の事業展開、事業における課題などを説明。続いて全員で、総合技術研究所内の石橋信

夫(創業メモリアル記念館、Dミュージアム、テクノギャラリーなどを見学。案内係の説明に熱心に耳を傾け、細かくメモを取る姿が見られた。

見学終了後は、オリエンテーションのまとめとして、同社の就職人気ランキングを上げるための解決策をチームで話し合っ

た。同社担当者から、「目的は何かを明確に」「費用対効果を考える」「私ならどう生の声を盛りこんでほしい」など、中間発表の内容に対する厳しい意見や感想が示された。

「大和ハウス工業×大阪経済大学PBL」最終回は、9月20日(木)午前9時から、大和ハウス工業本社(大阪市北区)で行われた。本学の徳永光俊学長も会場に駆けつけて、挨拶。「参加している1年生は全体の1%。この夏休みにPBLに参加している君たちは宝だ!!」と学生たちを激励した。

続くプレゼンテーションでは、まず「チームひのき」が発表。「就職人気ランキングを上げるには?」という今回のテーマに対して「就職人気ランキングは上げなくてよ

うにリストアップし、次回までに行うべき課題が示された。

8月22日(水)・29日(水)のワークショップを経て第4回の9月6日(木)は、午後1〜4時までに、J館2階第3会議室で大和ハウス工業への中間発表としてプレゼンテーションが行われた。学生たちは原氏から、発声やお辞儀の仕方、プレゼンテーションの基本などの指導を受け、真剣な表情で事前練習。その後、3チームは、大和ハウス工業の担当者に前に緊張しながらも、同社の就職人気ランキングを上げるための懸命に考えた解決策をプレゼンテーションした。同社担当者から、「目的は何かを明確に」「費用対効果を考える」「私ならどう生の声を盛りこんでほしい」など、中間発表の内容に対する厳しい意見や感想が示された。

「大和ハウス工業×大阪経済大学PBL」最終回は、9月20日(木)午前9時から、大和ハウス工業本社(大阪市北区)で行われた。本学の徳永光俊学長も会場に駆けつけて、挨拶。「参加している1年生は全体の1%。この夏休みにPBLに参加している君たちは宝だ!!」と学生たちを激励した。



い」と主張。その根拠を示したうえで、SNSを利用した企業のイメージアップ作戦を提案。SNS活用の方向性や具体的な内容を提示した。「Team OVER」は、就職人気ランキングを上げる方策として「競合他社より充実したインターンシップの実施」を掲げ、その根拠として、各社のインターンシップの現状と分析結果を示した。「チームミックスジュース」は、「文系女子の人気を集めること

ができれば就職人気ランキングが上がる」と提案。女子学生にアピールする方策として、インターンシップの活用を訴えた。大和ハウス工業の担当者「わがわがすかった」「生の声を集める力がある」と評価する一方、結果として示し合

い」と主張。その根拠を示したうえで、SNSを利用した企業のイメージアップ作戦を提案。SNS活用の方向性や具体的な内容を提示した。「Team OVER」は、就職人気ランキングを上げる方策として「競合他社より充実したインターンシップの実施」を掲げ、その根拠として、各社のインターンシップの現状と分析結果を示した。「チームミックスジュース」は、「文系女子の人気を集めること

ができれば就職人気ランキングが上がる」と提案。女子学生にアピールする方策として、インターンシップの活用を訴えた。大和ハウス工業の担当者「わがわがすかった」「生の声を集める力がある」と評価する一方、結果として示し合

い」と主張。その根拠を示したうえで、SNSを利用した企業のイメージアップ作戦を提案。SNS活用の方向性や具体的な内容を提示した。「Team OVER」は、就職人気ランキングを上げる方策として「競合他社より充実したインターンシップの実施」を掲げ、その根拠として、各社のインターンシップの現状と分析結果を示した。「チームミックスジュース」は、「文系女子の人気を集めること

ができれば就職人気ランキングが上がる」と提案。女子学生にアピールする方策として、インターンシップの活用を訴えた。大和ハウス工業の担当者「わがわがすかった」「生の声を集める力がある」と評価する一方、結果として示し合

い」と主張。その根拠を示したうえで、SNSを利用した企業のイメージアップ作戦を提案。SNS活用の方向性や具体的な内容を提示した。「Team OVER」は、就職人気ランキングを上げる方策として「競合他社より充実したインターンシップの実施」を掲げ、その根拠として、各社のインターンシップの現状と分析結果を示した。「チームミックスジュース」は、「文系女子の人気を集めること

ができれば就職人気ランキングが上がる」と提案。女子学生にアピールする方策として、インターンシップの活用を訴えた。大和ハウス工業の担当者「わがわがすかった」「生の声を集める力がある」と評価する一方、結果として示し合

い」と主張。その根拠を示したうえで、SNSを利用した企業のイメージアップ作戦を提案。SNS活用の方向性や具体的な内容を提示した。「Team OVER」は、就職人気ランキングを上げる方策として「競合他社より充実したインターンシップの実施」を掲げ、その根拠として、各社のインターンシップの現状と分析結果を示した。「チームミックスジュース」は、「文系女子の人気を集めること

ができれば就職人気ランキングが上がる」と提案。女子学生にアピールする方策として、インターンシップの活用を訴えた。大和ハウス工業の担当者「わがわがすかった」「生の声を集める力がある」と評価する一方、結果として示し合

2018年度教員採用試験結果合格者

2018.11.29現在

卒業年月	学部学科	氏名	採用自治体	教科
2019年3月予定	人間科学部人間科学科	中野 純	山口県	中学保健体育
2019年3月予定	人間科学部人間科学科	岩橋 克浩	和歌山県	小学校
2017年3月	人間科学部人間科学科	梁川 美咲	大阪府	小中いきいき
2016年3月	経済学部経済学科	白樫 勇気	大阪府	高校地理歴史(地理)
2015年3月	人間科学部人間科学科	福富 光	兵庫県	中学保健体育
2014年3月	経済学部地域政策学科	中島伊央利	大阪市	高校地理歴史
2014年3月	経営学部ビジネス法学科	浮田龍之介	愛媛県	商業
2014年3月	人間科学部人間科学科	各務 央祥	大阪市	中学特別支援学級
2012年3月	経営学部経営学科	加波 良洋	大阪府	高等部特別支援
2012年3月	人間科学部人間科学科	木戸 宏充	大阪市	中学保健体育

※大学に報告のあった方のみ掲載

チームミックスジュース



「大和ハウス工業×大阪経済大学PBL」最終回は、9月20日(木)午前9時から、大和ハウス工業本社(大阪市北区)で行われた。本学の徳永光俊学長も会場に駆けつけて、挨拶。「参加している1年生は全体の1%。この夏休みにPBLに参加している君たちは宝だ!!」と学生たちを激励した。

続くプレゼンテーションでは、まず「チームひのき」が発表。「就職人気ランキングを上げるには?」という今回のテーマに対して「就職人気ランキングは上げなくてよ

うにリストアップし、次回までに行うべき課題が示された。

8月22日(水)・29日(水)のワークショップを経て第4回の9月6日(木)は、午後1〜4時までに、J館2階第3会議室で大和ハウス工業への中間発表としてプレゼンテーションが行われた。学生たちは原氏から、発声やお辞儀の仕方、プレゼンテーションの基本などの指導を受け、真剣な表情で事前練習。その後、3チームは、大和ハウス工業の担当者に前に緊張しながらも、同社の就職人気ランキングを上げるための懸命に考えた解決策をプレゼンテーションした。同社担当者から、「目的は何かを明確に」「費用対効果を考える」「私ならどう生の声を盛りこんでほしい」など、中間発表の内容に対する厳しい意見や感想が示された。

「大和ハウス工業×大阪経済大学PBL」最終回は、9月20日(木)午前9時から、大和ハウス工業本社(大阪市北区)で行われた。本学の徳永光俊学長も会場に駆けつけて、挨拶。「参加している1年生は全体の1%。この夏休みにPBLに参加している君たちは宝だ!!」と学生たちを激励した。

ができれば就職人気ランキングが上がる」と提案。女子学生にアピールする方策として、インターンシップの活用を訴えた。大和ハウス工業の担当者「わがわがすかった」「生の声を集める力がある」と評価する一方、結果として示し合

教職

KAWARABAN



「広い世界を見る」ことができる 教師になるために

- ・青年海外協力隊 2017年度1次隊 サモア独立国 小学校教育隊員
- ・神戸市立有瀬小学校教諭

根岸浩章さん(経済学部 (80回卒))

大学を卒業後、神戸市立有瀬小学校で3年間教諭を務めながら、青年海外協力隊に参加した根岸浩章さん。ある「思い」を持って海外に飛び出し、異国で小学校の教諭をしている彼が学生に伝えたいことは。

はじめまして、根岸浩章です。

5年前に大阪経済大学を卒業し、現在は『青年海外協力隊』で『サモア』という国で小学校の先生をしています。

青年海外協力隊に参加した理由は、人間関係の流動性が低い『学校』という場で働くうちに、人間関係の流動性の低さに対する『閉塞感』と、それによって自分の世界が狭くなっていくことへ『危機感』を覚えたからです。ぼくは『広い世界を見る』ことが最も大切な教師の資質だと考えてます。しかし、3年間過ごすうちに狭まっていく視野と世界。このままではマズいと、世界に飛び出しました。

サモアは『楽園』と比喻されることもある、太平洋に浮かぶ小さな南の島国です。ここでの生活はすべてが異なります。まさに『異文化』。村には日本人は自分1人。完全なる『よそ者』。そんな、異国の地で『よそ者』として暮らす経験は、今までぼくの中に無意識(ときに意識的)に形成されてきた『普通』『常識』といったものを、ほろほろほくしてくれています。それはまるで、世界を見るメガネをもう1つ手に入れたかのような感覚です。

肝心の活動のほうは、うまくいってません。「村の小学校での授業および現地教員への技術移転」がぼくの役割です。が、ここ『楽園サモア』では勉強・仕事をしなくても生きていけちゃう環境があるため、人々の教育向上へのインセンティブは皆無。また「働かないis最高」な、まったく文化で、先生が全員出勤することは週に1日あるかどうか。ゆるすぎる環境とやる気のギャップが大きく、モチベーションを見い出せず長い間苦しみました。けれど結局、よ



そ者の自分はここの人たちのペース、呼吸で世界を見て生活することが大切なんだと、最近やっとわかってきたところです。

最後に教員を目指している学生さんに一言。「旅」に出ましょ。そして『世の中には自分が知らない

コト、モノ、ヒトがたくさんある』ということを感じてください。それが見える世界を広げるということです。広い世界を見てください。先生が見ている世界が狭いと、救われない子が生まれちゃいますから。

最後まで読んでくださってありがとうございました。大学生活、好きなことを思い切り探究して楽しんでくださいな!



Twitter



ブログ

世代を超えて、健康を楽しく学ぶ



ウェルネスパーク東淀川～学んでつながる絆～

人間科学部主催の市民参加型イベント「ウェルネスパーク東淀川」が、8月4日(土)、午前9時から午後4時まで、A館1階で開催された。これは東淀川区で暮らしをともにする人たちに、健康を楽しく学んでいこうと、コミュニケーションを醸成することが目的。

ギャラリーでは、午前10時から、手作りワークショップ「ぐるぐるアニメーション」に挑戦。象によるものと、北市記子准教授が説明する、子どもたちは興味津々の表情を見せていた。11時30分からは、親子お手軽ウェルネススクッキング「親子でチャレンジ！夏のフルーツポンチ大作戦」。地域薬局の管理栄養士さんたちによる〇×クイズを親子で楽しんだ後、様々な夏のフルーツを使ったフルーツポンチを作り試食をした。

午後1時30分からは、he 井戸端会議「私×東淀川区×ウェルネス」。まず高井逸史教授が、日本の高齢者の現状などについて解説。人生100年時代を東淀川区でいかに生きるか。そのために必要なモノ・コトなどについて参加者が意見を述べた。

一方、ロビーでは、血管年齢や骨密度などを計測するコーナーや、人の自然治癒力に働きかけるタッピングタッチ、障がい者のために考案されたボッチャ体験コーナー、栄養飲料などの試験コーナーなどが設けられ、会場は子ども連れのファミリーや高齢者のグループなどで賑わった。人間科学部1～4年高井ゼミ生2名が参加した。



「おどろき」づくり



夏フルーツポンチ大作戦

死生観について語る野副佳織

合つ、グループワークが行われた。続いて午後3時から、死生観について考える。まず平等文庫教授が「生には死が伴う」として、「自分の死について考える必要性」をアピール。次に清恵会病院(堺市)の看護師、磯野由紀子さんが「人生の最後の局面をどう生きるか」のテーマで、死の現場に立ち会った医療経験者としての経験や、自然治癒力に働きかけるタッピングタッチ、障がい者のために考案されたボッチャ体験コーナー、栄養飲料などの試験コーナーなどが設けられ、会場は子ども連れのファミリーや高齢者のグループなどで賑わった。人間科学部1～4年高井ゼミ生2名が参加した。

最初消防局の担当スタッフが、「災害に処する」には、情報を多く得て、それを使えることが大事。予想される南海トラフ大地震に備えて、避難の要領などを学んで欲しい」と話した。

と挨拶。続いて、心肺蘇生のためのAED(自動体外式除細動器)の操作方法と胸骨圧迫・人工呼吸などを練習。毛布と物干し竿で担架をつくり怪我人を搬送する方法や、溺れている人を救助するためのロープワークなども学んだ。

屋外では、さまざまな量のゲリラ豪雨を模擬体験。大雨で浸水した部屋の扉を開ける実験で、避難を阻む水の勢いと水圧の怖さを体感した。また、

た「地震体験車」では、震度7の大地震を経験。さらに、消火器を使って火を消すためのコツなども、燃え上がる炎を前に実践的に習得した。

その後再び屋内に戻り、停電して真っ暗になった部屋や火事による煙が充満した場所からの避難方法を学習。男子学生はホースによる放水なども体験し、最後に参加者全員が修了証書を受け取った。

大学生防災体験ゼミ

防火・防災の知識と技術を高める



「17歳からのメッセージ」表彰式



第18回高校生フォーラム 表彰式

第18回高校生フォーラム「17歳からのメッセージ」表彰式が、11月10日(土)午後1時から3時まで、D館2教室で行われた。

今年の募集内容は①「今までの自分、これからの自分」②「今いちばん知りたいこと、学びたいこと」③「今、これだけは言いたい!」(自由課題)で、応募数は全国356校から3万3922作品。8月29日(水)に選考会が行われ、グランプリ3作品、金賞8作品、銀賞45作品、学生審査員賞1作品含む、奨励賞94作品、学校特別賞30校が選定された。第1部では、徳永光俊学長

が「皆さんに会えて嬉しい。17歳の本音を読むのは楽しい。最近のメッセージには高校生の本音が出てくるようになった。今後も続けていきたい」と挨拶。続いて審査員を代表して、読売新聞大阪本社編集委員の川西勝氏が「皆さんは自分が体験して感じたこと、成長したことを掘り下げて書いています。それが心に響く。教えられることも多い」と総評した。

続く表彰式では、式に参列した高校生グランプリの名、金賞5名、銀賞30名に、徳永学長から表彰状と副賞が手渡された。また銀賞と学生審査員賞の高校生には、本学の学生審査員から賞状と副賞が渡された。

第2部の懇親パーティは、府立豊学校は、「自分の世界に会場を移して行われた。進研アドマナビジョンブック編集長の古内由美子氏が「これから自分の気持ちを文字にして伝えてほしい」と乾杯の挨拶を行い、懇親パーティがスタート。審査員と受賞者

「自分が大人になりたい」と、それに見られた。グランプリを受賞した中川翔さん(富山第一高等学校)は、「文章を読むのも書くのも好き。受賞は自信になった。将来は国語教師になりたい」。塩塚未空さん(京都府立豊学校)は、「自分の世界に会場を移して行われた。進研アドマナビジョンブック編集長の古内由美子氏が「これから自分の気持ちを文字にして伝えてほしい」と乾杯の挨拶を行い、懇親パーティがスタート。審査員と受賞者

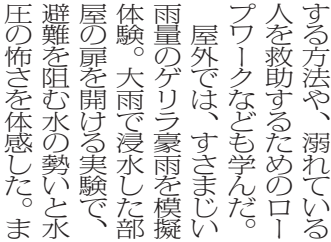
な大人になりたい」と、それに見られた。グランプリを受賞した中川翔さん(富山第一高等学校)は、「文章を読むのも書くのも好き。受賞は自信になった。将来は国語教師になりたい」。塩塚未空さん(京都府立豊学校)は、「自分の世界に会場を移して行われた。進研アドマナビジョンブック編集長の古内由美子氏が「これから自分の気持ちを文字にして伝えてほしい」と乾杯の挨拶を行い、懇親パーティがスタート。審査員と受賞者

な大人になりたい」と、それに見られた。グランプリを受賞した中川翔さん(富山第一高等学校)は、「文章を読むのも書くのも好き。受賞は自信になった。将来は国語教師になりたい」。塩塚未空さん(京都府立豊学校)は、「自分の世界に会場を移して行われた。進研アドマナビジョンブック編集長の古内由美子氏が「これから自分の気持ちを文字にして伝えてほしい」と乾杯の挨拶を行い、懇親パーティがスタート。審査員と受賞者

消防士を志望する男子学生たちの感想



- 斎藤雄登さん(経済学部3年) 大地震の体験ができて良かった。ますます消防士になりたい気持ちが強まった。
- 的地孝憲さん(人間科学部3年) 放水体験が勉強になった。思ったより水圧があり、連携が大事だと思った。
- 堀内豪平さん(人間科学部3年) 2回目の参加だが、内容が異なっていて勉強になった。今後の就職活動に活かしたい。
- 大久保雷さん(経済学部2年) 真っ暗な場所からの避難の難しさと、周囲が見えないことの怖さを実感できた。



経スポ

準硬式野球部



第70回を迎えた「全日本大学準硬式野球選手権大会」に2年連続出場を果たした準硬式野球部は8月20日、静岡県静岡市清水の清水公園野球場で関東地区の強豪・法政大学と対戦した。持ち前の粘りを発揮して勝利を目前にしたが、九回2死から追いつかれ、逆転サヨナラ負け。前回大会ベスト4進出に続く初戦突破はならなかった。

前半は投手戦。先発の左腕・千葉は相手打線を五回まで2安打、無失点の好投。打線は相手の技巧派左腕に五回まで1安打に抑え込まれ、無得点試合が動いたのは六回だった。チーム2本目となる原口のヒットをきっかけに相手エラーもあって大経大が2点を先取。ところが、その裏、守備の乱れなどで4点を失い、そのまま2点差で九回へ。この九回に、チームの明暗を分けるドラマが待ち受けていた。大経大は1死から代打・中田がセンターオーバールの二塁打を放ち反撃開始。続く三



全日本大学準硬式野球選手権大会										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大阪経済大学	0	0	0	0	0	2	0	0	3	5
法政大学	0	0	0	0	0	4	0	0	2X	6

強豪相手に大健闘!!

●中野弘之 監督

とてもいい試合をしてくれました。それだけに最後は逃げ切りたかった。チーム内には故障者もいてベストの状態ではありませんでしたが、逆転されてもあきらめず、再逆転。今のチームの成長のあとをみせてくれました。その一方で、1アウト、1球の大切さを改めて感じました。六回に追加点を取っていたら、継投の時期をもう少し早くしていたらという反省もあります。これらの経験を生かし、勝ち上がっていきけるチームにしたいと思っています。

●米田直樹 主将(経営学部4年)

波に乗ったら集中打が出るチーム。六回に先制した時はベンチの雰囲気もよく、チーム力も右肩上がりでしたので負ける気はしませんでした。そのあと逆転されましたが、粘り強さをもっているチームなので負けるとは思っていませんでした。勝てなかったのが本当に悔しい。後輩にはこの悔しさをバネに、さらにいいチームにしていってほしい。大切なことは信念を曲げずに努力することだと思っています。

VOICE



4番・石橋は粘ったあけく押し出しの四球。これで同点。続く、鎌田が一、二塁間を破り、白熱の試合にヒリオドがうたれた。最後の1球まで手に汗握る熱闘。見応えがあり、観戦した人を感動させた。スタンドでは、茅野部長率いる吹奏楽総部が「宇宙戦艦ヤマト」狙いの健闘をたたえた。

うち「など迫力のある演奏を、田倉主将率いるチアリーダー部が曲に合わせた見事な演技をそれぞれ披露。試合後は「応援に熱中していて時間が経つのを忘れました。感動的な試合の応援をさせてもらえ感謝です」と両り「ダー」は口をそろえ、選手健闘をたたえた。



全国大学とスタート前の応援合戦を展開

ほか、立命館大学、京都産業大学の3大学。全国各地の代表チームが色とりどりののぼりを連ね、応援団、チアなどによる独自の応援を繰り出す中で、本学はスクールカラーであるマゼンタののぼりを掲げ、存在を熱心にアピールした。チアリーダーたちは、この日のために準備したパフォーマンスを披露。藤本 昭理理事長、徳永光俊学長も多忙なスケジュールの中、応援に駆けつけた。



大阪経済大学

前監督の思いをメンバー全員が胸に刻んで



今年1月逝去した鶴谷前監督が「出たい」と言い続けた出雲駅伝の出場権を青木基泰監督とともに掴み取った選手たち。一区では20位と出遅れたものの、30度を超える暑さにも負けずシリジリと順位を上げていき、最終成績は17位と大健闘。目標の13位にはあと一歩及ばない結果だったが、青木監督は「学生スポーツは結果だけが目的ではない。目標に向かって努力すること、社会に出

てから立派な大人として活躍できる」と選手たちへの言葉を贈った。TV番組やスポーツニュースでは伝わりづらいリアルな感動に酔い、思ひ出深い一日となった。

「駅伝の迫力に魅了された。27年ぶりに経大が出雲駅伝に出られるところを直に見ることができ、感激している」と感想を語った。TV番組やスポーツニュースでは伝わりづらいリアルな感動に酔い、思ひ出深い一日となった。



2018年10月8日(月・祝)、島根県出雲市において第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走が開催された。本学陸上競技部は、本年1月に亡くなった前監督・鶴谷邦弘氏の遺志を受け継ぎ、27年ぶり3度目の出雲駅伝出場を実現。応援バスで駆けつけた陸上競技部の仲間たちやチアリーダー、一般学生、同窓生たちの声援を受け、秋の出雲路45.1kmを爽やかに駆け抜けた。

陸上競技部

沿道の応援学生も心を一つに!



憧れの27年ぶり出雲駅伝快走!!

インカレ4年ぶりの1回戦突破

経スポ

ハンド ボール部



強烈なシュートが
次々に炸裂!

金沢大に

圧勝!!

全日本学生ハンドボール選手権大会			
11/10 (土)	大阪経済大学	13前半 7 19後半 11	金沢大学 18

VOICE

●福井孝明 部長



立ち上がりから思うようなカタチにならず、足がまったく動いていなかった。オフェンスもディフェンスもふだんの半分も実力が発揮できていなかった。後半戦になってようやくオフェンス面で動きが出るようになり、スピードにも乗るようになったが、やはりディフェンス面で課題を多く残した試合だったと思います。2回戦の日本体育大学との試合では対戦相手に臆せず気を引き締めて、いつも以上の力を発揮してもらいたい。

●明石光史 監督



今日の試合はよくない、のひと言です。練習で自分たちがやってきたことが、出し切れていない。オフェンスもディフェンスも、もたついてしまった感があります。前半の15分くらいにもっと点差を引き離しておくべき試合だったと思います。後半戦は基礎体力の違いで、うちのほうが走っていましたから、その点は評価できます。ただ、試合の質としては、まだまだやりきれていない部分を多く残した試合だったと思います。

●村木洋斗 主将(経済学部4年)



明日は福井部長の母校である日本体育大学が相手ですから、まず初戦の金沢大学を勝ち切ることが目標でした。ただ全国の舞台に慣れていない選手が多いせいか、前半戦、チームに硬さが目立ちました。序盤で点差を広げておけば、楽な試合になったはずですが。金沢大学は、自分たちが予想していた以上の力とスピード感があっていいと思います。そこに戸惑ってしまったのは、僕たちの弱さが出たと思っています。結果的には10点以上の差をつけて勝ちましたが、反省材料の多い試合だったと思います。

前半戦開始早々、金沢大学が1点を先取する。すぐに1点を返すことが出来たが、戸惑ったのか、大経大はオフェンス、ディフェンスともに動き

が鈍い。しかし金沢大学に3点を奪われたあたりから、チームの呼吸が整い、いつもの動きを取り戻すと立て続けにシュートを決める。こうなると

翌日、2回戦の相手は予想した通り、強豪・日



2018年11月10日(土)、全日本学生ハンドボール選手権大会が丸善インテックアリーナ大阪で開催された。ハンドボール部は今年で33年連続53回目の出場だが、ここ数年は1回戦敗退が続いている。今回、初戦の金沢大学を突破すれば恐らく日本体育大学と対戦することになる。日本体育大学は今年で退任が決まっている福井部長の母校であり、1回戦はなんとしても勝ち切りたいところだ。

大経大ペースで試合が進み、前半戦は13-7の大差をつけて折り返した。後半戦に入ると、そのまま波に乗るかと思われたが、開始早々、金沢大に1点を奪われる。すぐさま点を取り返すが、点を取られては取り返すという押され気味の展開。しかし、相手に9点、10点とシュートを決められると、大経大の気迫にスイッチが入った。ここからは足を使った積極的な攻めを開始する。相手チームは疲れが出始めたのか、攻撃にミスが目立ち始める。大経大は金沢大学をいよいよに振りまわすと次々と得点を加算。金沢大はたまたまタイムを要求するが、時すでに遅く、流れは変わらず大経大は本来の動きを取り戻し、次々と得点を重ねていく。終わってみれば32-18の圧勝で4大会ぶりに2回戦進出を果たした。

CBS文化放送局

コンテストで第3位に

12月8日(土)NHK全国大学放送コンテストで、作品『私は黒。』が音声CM部門で3位に選ばれました。



11月18日(日)「関西学生サッカーリーグ戦(後期)」第10節、大阪産業大学戦が大阪産業大学生駒第9グラウンドで行われ、3-2で勝利し、最終節を残し、2部Aリーグ優勝を決め、1年で1部復帰を決めた。この試合は2点ビハインドと苦しい展開であったが、鮮やかな逆転勝利で優勝と1部復帰の花を添えた。

経スポ TOPICS



逆転勝利で 1部昇格
2部Aリーグ優勝

サッカー部



FD通信

全学FD委員会では、本学の教育の質を向上させるために9月と12月にフォーラムを行いましたのでご報告します。

第39回全学FDフォーラム

教育の質の保証・向上に向けた 高等教育センターの役割とその重要性

●2018年9月10日(月) 16:20-18:00 D館3階 D32教室
岡山理科大学 副学長(教育担当)・教育推進機構長
秦 敬治 教授



教育の質の保証・向上が社会から強く求められている中、高等教育センターの役割が注目されています。高等教育センター（以下センターとする）とは、大学によって名称や形態、役割も様々ですが、授業改善といったミクロレベルだけでなく、ミドル(学部)、マクロ(大学)といった大学全体で取り組むべき教育改革を推進する組織です。

そこで、今回のFDは、愛媛大学や追手門学院大学などで長年、センターの立ち上げや運営に携われてこられた秦先生をお迎えし、センターの役割やその重要性について講演いただきました。秦先生からは、組織形態や構成員などの工夫、特に教職員がともに協力し合いながら推進していくことの重要性を、これまで勤められてきた3つの大学の事例を用いながら説いていただ

きました。質疑応答ではトップが方向性を示すことの意義、やる気のある人を応援し、組織を引っ張っていくような仕掛けづくりが重要であると回答いただきました。

本学でも教職員は日々学生と真剣に向き合い教育・支援に取り組んでいます。組織横断的な部分での教育改革はまだまだ発展途上です。社会が大きく変わっていく中で、これまでの"大学が"「何を教えたか」から、"学生の皆さんが"「何を学び、身に付けることができるのか」といった「学修者本位の教育」が求められます。本学では、学生の皆さんを全力で支援していくために、引き続き積極的に教育改革に取り組んでいきます。

【参加者】44名(教員24名、職員20名)

第40回全学FDフォーラム

学ぶこと、考えること、実践すること

●2018年12月14日(金) 18:00-19:30 B館3階 B32教室
ファイナンシャル・アナリスト/
元立教大学大学院ビジネスデザイン研究科教授
岸本 光永 氏



イノベーション、グローバル化、AIなどのコンピュータが発達するなか、学生は何を学ぶ必要があるか、大学としてどのような教育を行わなければならないかについて、本学の大学院でも教鞭をとられていた、ファイナンシャル・アナリストの岸本光永氏にお話を伺う機会を得ました。

講演のなかで岸本氏は、学生は読解力を高めること、自ら学ぶ姿勢を持つことが重要で、論理的思考力やコミュニケーション能力、主体性といった「ジェネリックスキル」を獲得し、「学問のインフラ」を整えた後に、専門的な知識を学ぶことが大切だといいます。

また、岸本氏は論理的思考力のうち、問題を見つけるための能力、「クリティカルシンキング」の重要性を強く主張されました。“疑う”ことが重要であり、これ

は考えるための前提条件になるといいます。その能力を高める一つには、相互理解を深めるダイアログ(対話)が必要であり、この対話を促進するためには、教員自身がファシリテーターと呼ばれる、議論の調整役になる能力を高めることが重要であるとのことでした。

ややもすると、私たちはアクティブラーニングの実施やシラバスの改善といった個別への対応が、教育改革だと思いがちです。しかし、学ぶための基礎的な力を養成すること、何のために学ぶのかを確認させ、学び続ける力をつけさせることが、これからの大学教育に不可欠であると認識しました。目の前の視野が広がると同時に、大きな課題をいただいたように感じました。

【参加者】33名(教員17名、職員9名、卒業生7名)

大経大 INFORMATION

●卒業式・学位授与式

2018年度大阪経済大学 卒業式・学位授与式を下記のとおり挙行いたします。

午前の部

対象学部：経済学部、人間科学部、
大学院経済学研究科、
大学院人間科学研究科
場 所：70周年記念館フレアホール
日 時：2019年3月16日(土)
10:00～(入場は9:30～)

午後の部

対象学部：経営学部、情報社会学部、
経営情報学部、
大学院経営学研究科、
大学院経営情報研究科
場 所：70周年記念館フレアホール
日 時：2019年3月16日(土)
13:00～(入場は12:30～)

お問い合わせ

大阪経済大学 総務部総務課
(06) 6328-2431代

- 学生・保護者の方用の駐車場はありません。車でのご来場はご遠慮ください。
- 収容人数の関係で、保護者の方は式場内へお入りいただけないこともあります。あらかじめご了承ください。なお、同館3階の教室において、式典の模様を同時放映いたします。

●KEIDAI DAYSが リニューアル

次号50号から「KEIDAI DAYS」はタブロイド版から、A4冊子版にリニューアルします。内容も更に充実し、お届けいたします。



学費納付制度の変更について

2019年度春学期より、納付期限が次のとおり変更になります。また、これに伴い復籍制度は廃止となります。除籍期限までに学費の納付が確認できない場合は、同日付で除籍となりますので、ご留意ください。

新納付制度 (2019年度春学期より)	納付期限	除籍期限
	春学期：5月31日	春学期：7月15日
	秋学期：11月30日	秋学期：1月15日
		延納

旧納付制度 (2018年度秋学期まで)	納付期限	除籍期限	復籍期限
	春学期：4月30日	春学期：5月31日	春学期：6月20日
	秋学期：10月31日	秋学期：11月30日	秋学期：12月20日
		延納	

※各期日が休日の場合は翌日となります。

みんなで/
古本募金

年末年始 特別キャンペーン

査定金額 **20%UP!**

※切手・はがき・貴金属・金券類除く

期間：2018年12月1日～2019年1月8日

期間中にご提供いただいた**本・DVD**等の査定金額を**通常より20%UP**いたします!